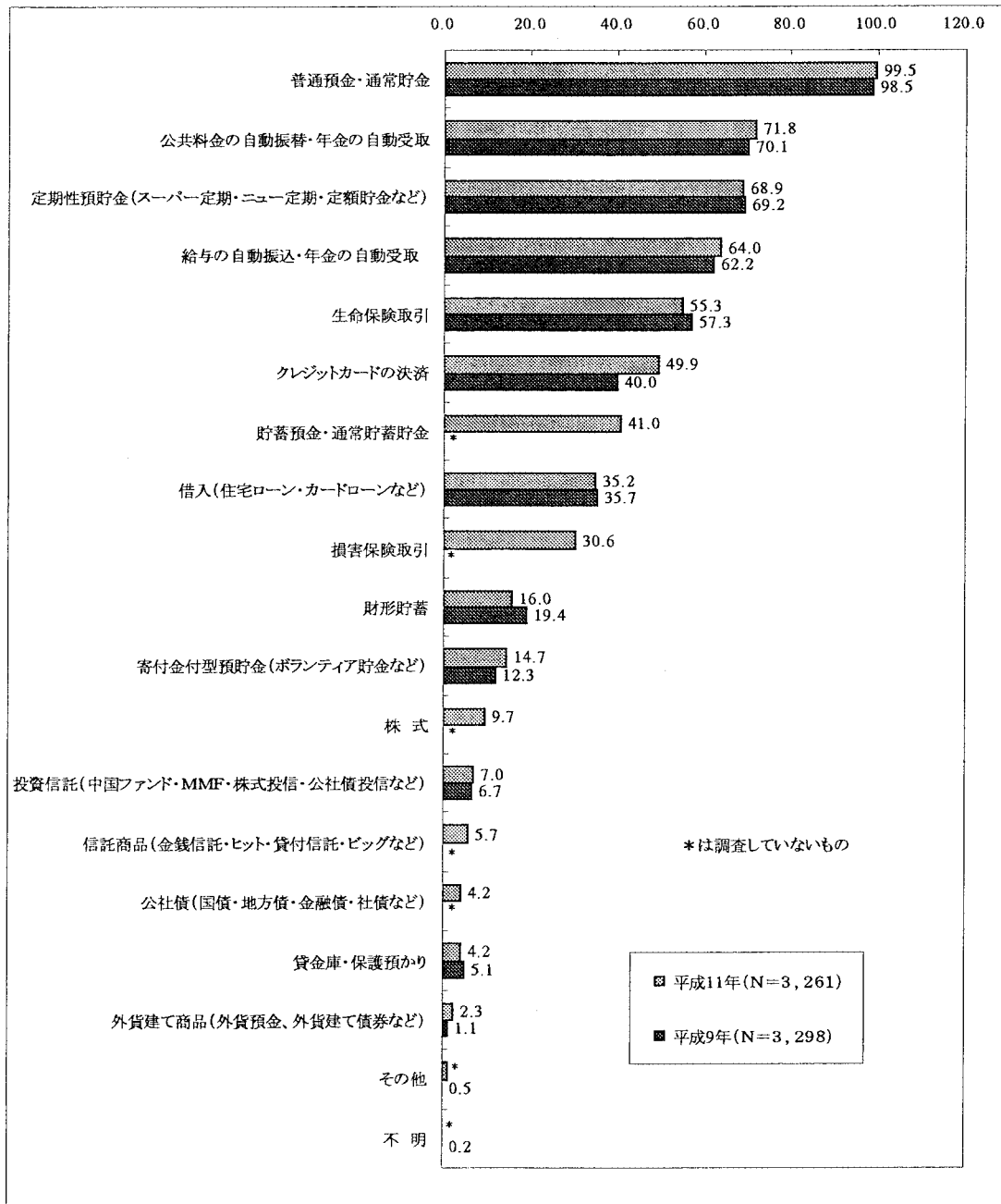


金融サービスの利用動向

1. 金融取引全般

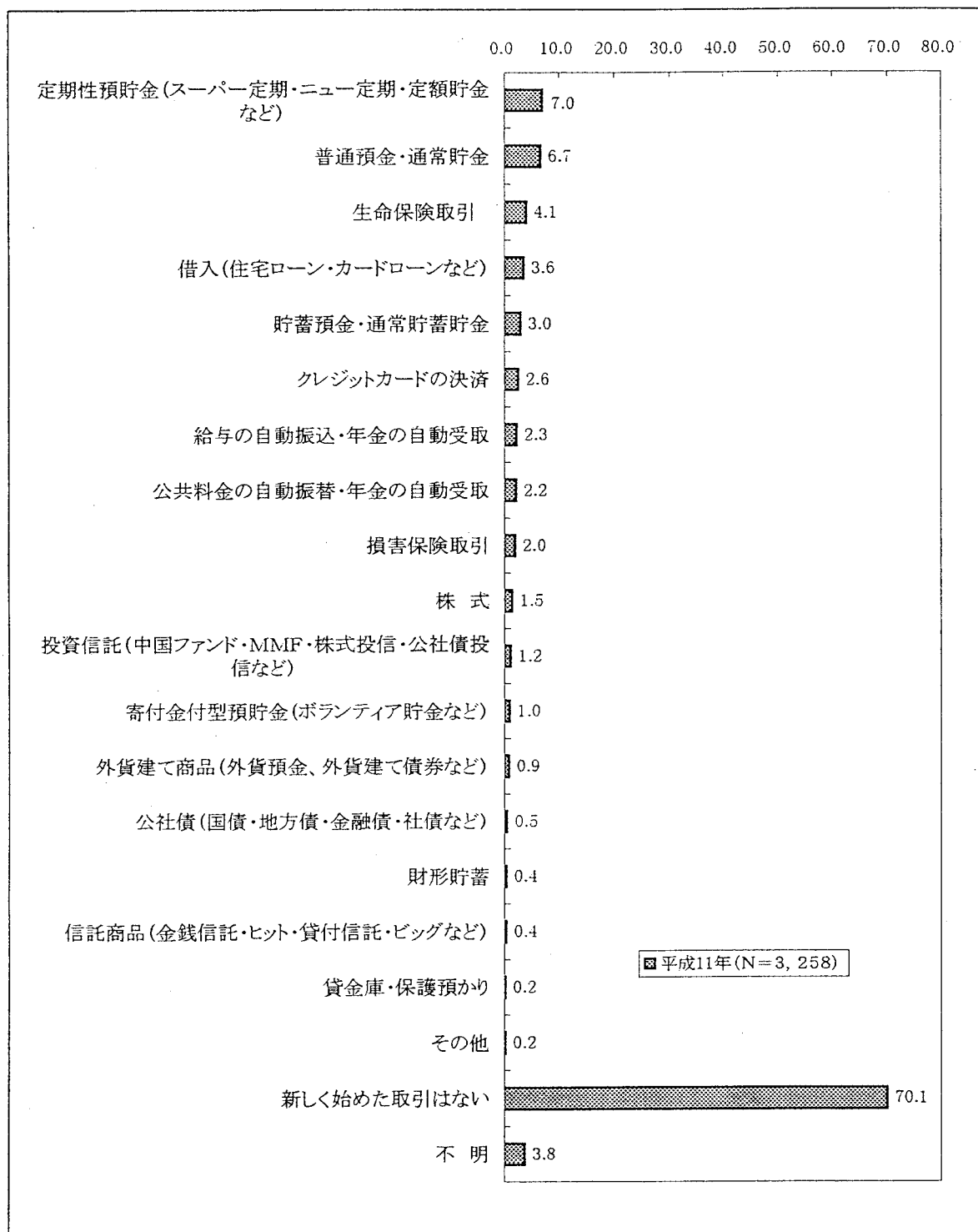
問9 現在行っている金融取引

金融機関で現在行っている取引を聞いたところ、「普通預金・通常貯金」(99.5%)、「公共料金の自動振替・年金の自動受取」(71.8%)、「定期性預貯金」(68.9%)などが上位にあげられている。前回の調査結果と比較すると、これら上位の項目については順位、比率ともにほとんど変わらない。



問9-付問1 最近1年間で新たにはじめた金融取引

金融機関で行っている取引のうち最近1年間で新たに始めたものとしては、「定期性預貯金」(7.0%)と「普通預金・通常貯金」(6.7%)が5%を超えているが、「新しく始めた取引はない」という人が70.1%であった。

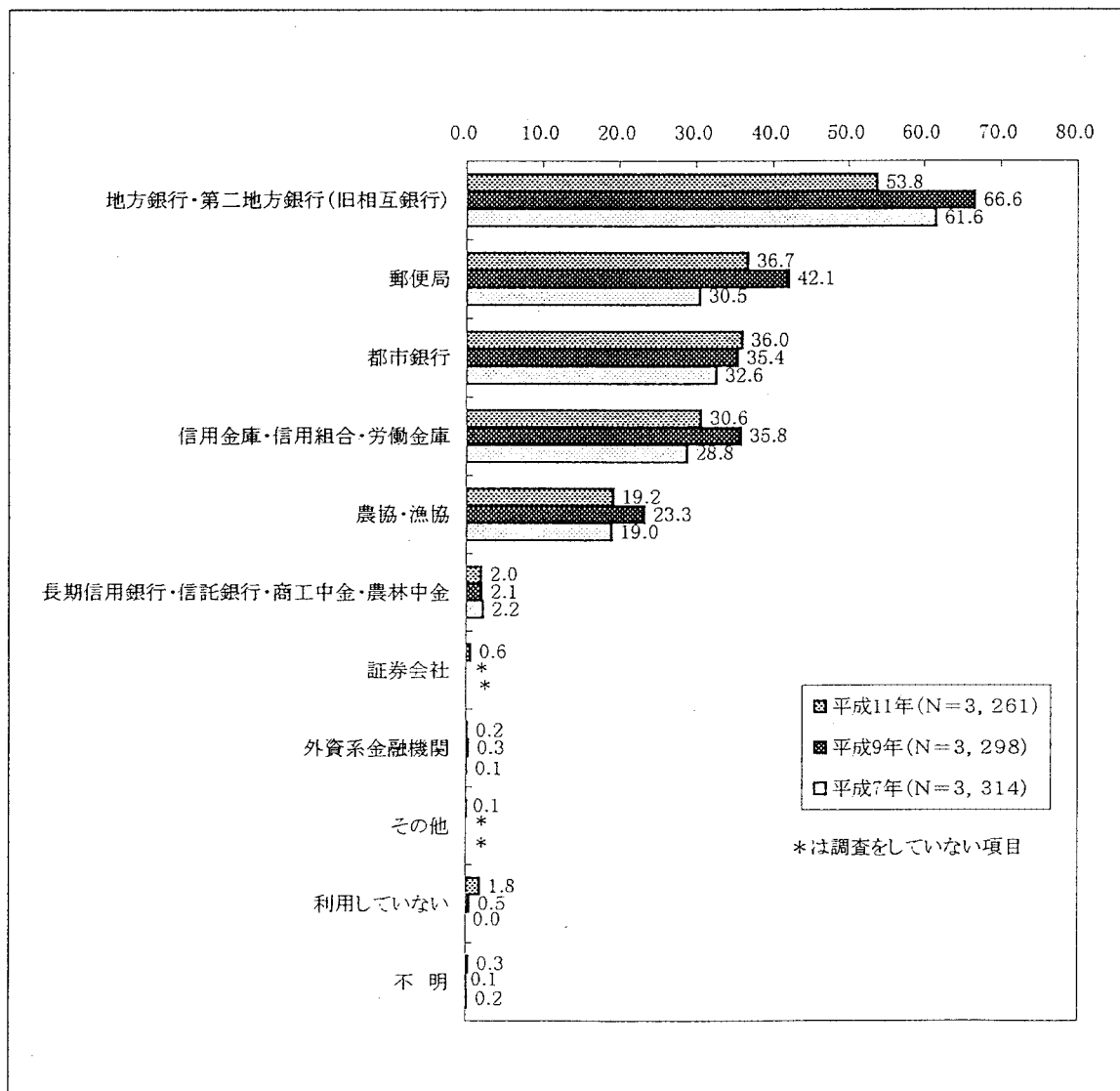


2. 決済サービス

問10 決済口座がある金融機関

決済口座がある金融機関としては、「地方銀行・第二地方銀行」(53.8%)が最も多く、次いで、「郵便局」(36.7%)、「都市銀行」(36.0%)、「信用金庫・信用組合・労働金庫」(30.6%)が3割台で続いている。

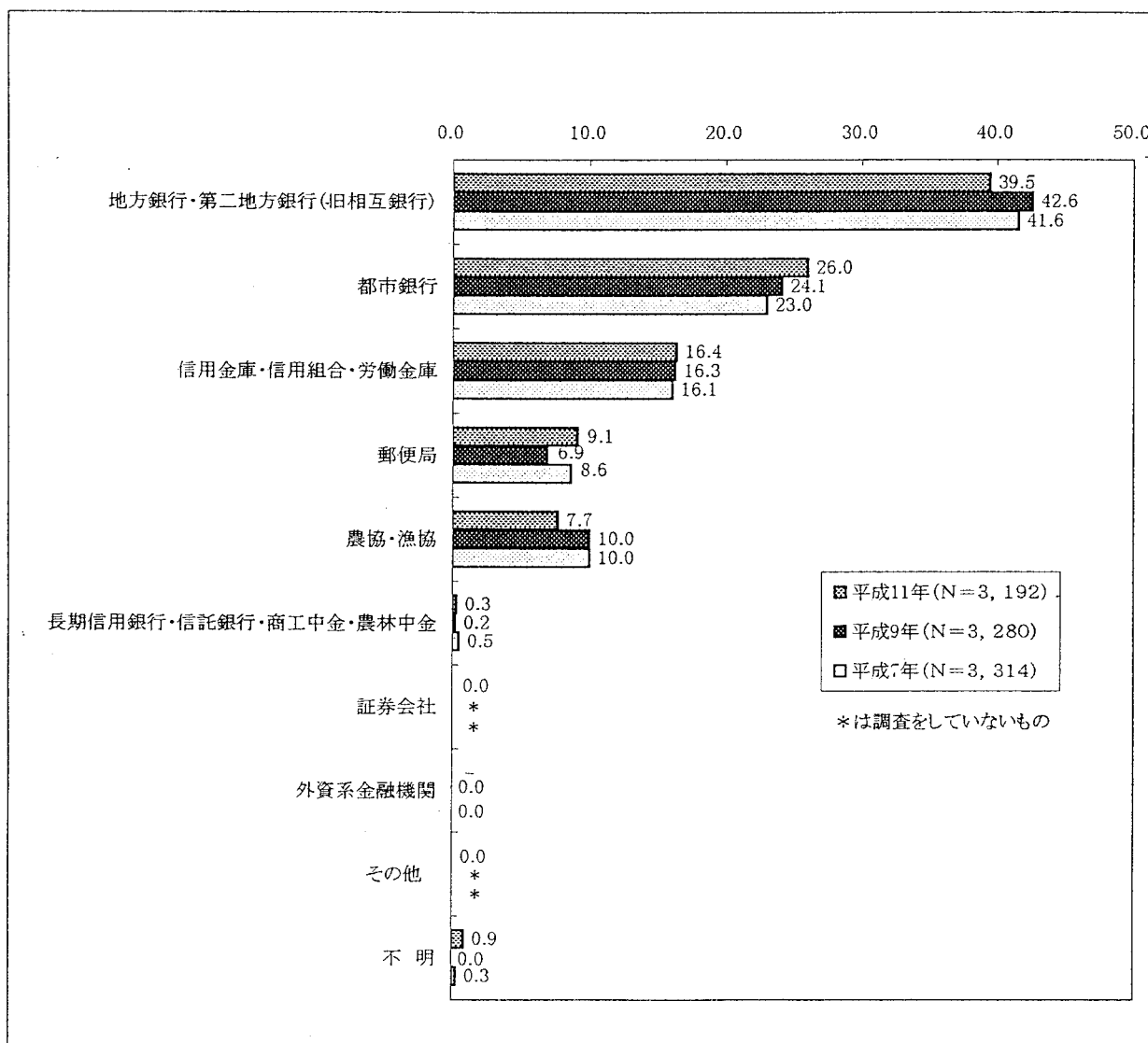
前回の調査結果と比較すると、「都市銀行」がほぼ同率となっているが、「地方銀行・第二地方銀行」、「郵便局」、「信用金庫・信用組合・労働金庫」はいずれも数ポイント減少している。



問 10 - 付問 1 自動引落・受取の利用金額が最も多い金融機関

それらの金融機関のうち決済口座としての利用金額が最も多い金融機関としては、「地方銀行・第二地方銀行」(39.5%)、「都市銀行」(26.0%)、「信用金庫・信用組合・労働金庫」(16.4%) となっている。

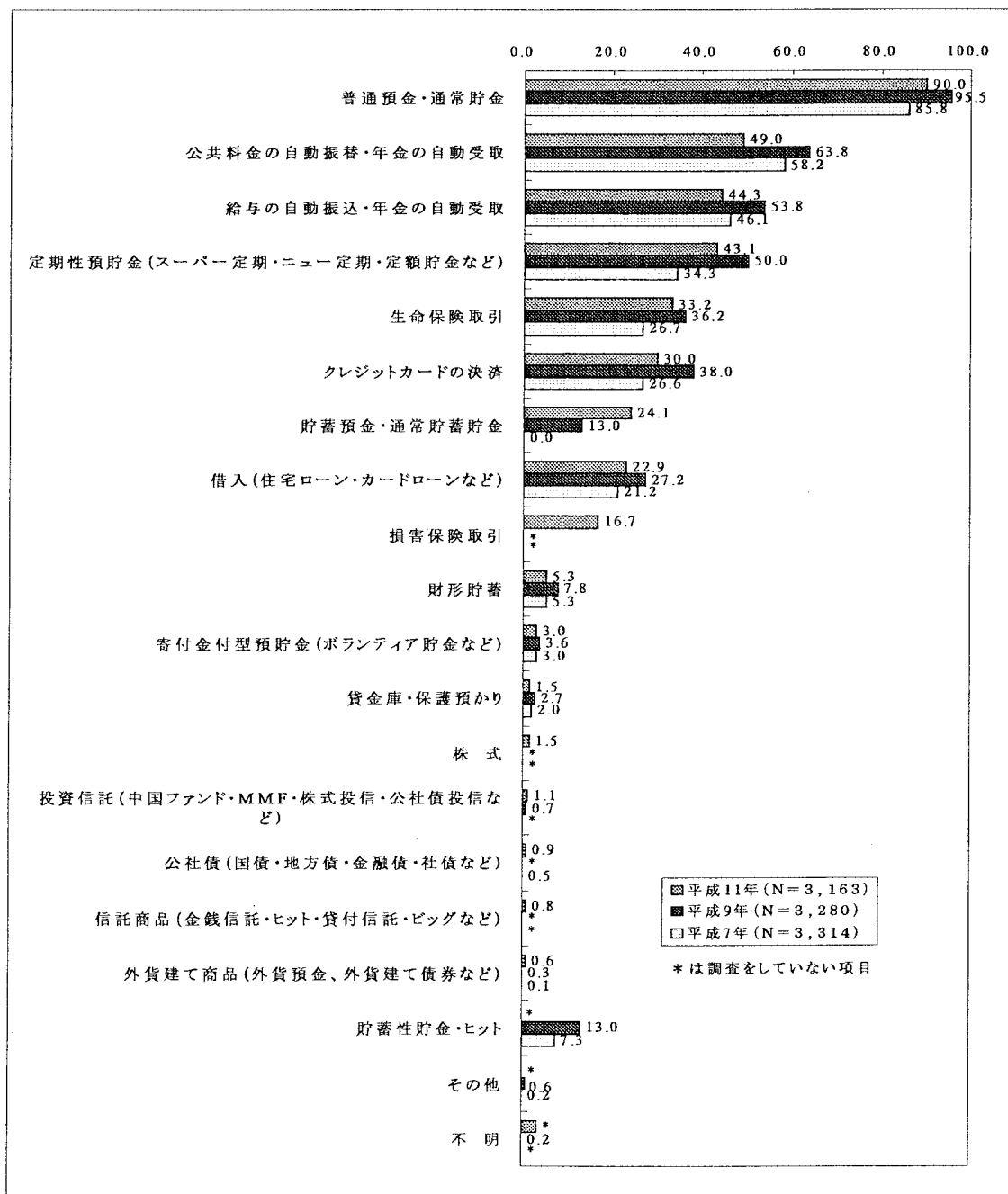
前回の調査結果と比較すると、これらの順位は同じで、比率もほぼ同様である。



問10-付問2 付問1の金融機関で現在行っている金融取引

金融機関で行っている取引のうち現在行っているものとしては、「普通預金・通常貯金」(90.0%)が最も多く、次いで、「公共料金の自動振替・年金の自動受取」(49.0%)、「給与の自動振込・年金の自動受取」(44.3%)、「定期性預貯金」(43.1%)、「生命保険取引」(33.2%)、「クレジットカードの決済」(30.0%)となっている。

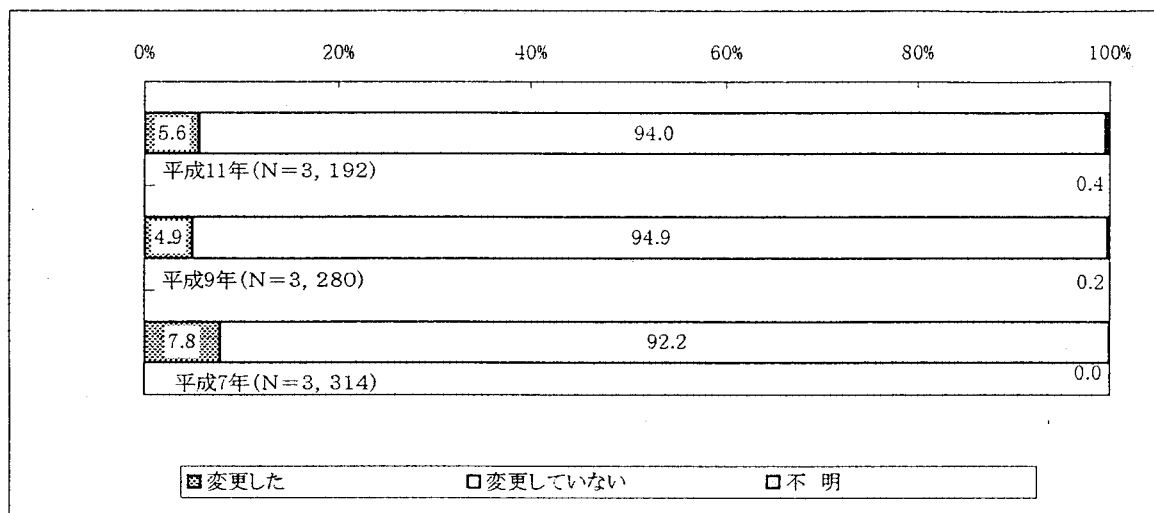
前回の調査結果と比較すると、今回上位にあげられた項目はいずれも比率の減少がみられ、特に、「公共料金の自動振替・年金の自動受取」は前回から15ポイント近くの減少となっている。



問 10-付問 3 付問 1 の金融機関は 2 年前と同じか

2 年前と比べ、決済口座としての利用金額の最も多い金融機関を変更したかどうかを聞いたところ、「変更した」という人は 5.6%であった。

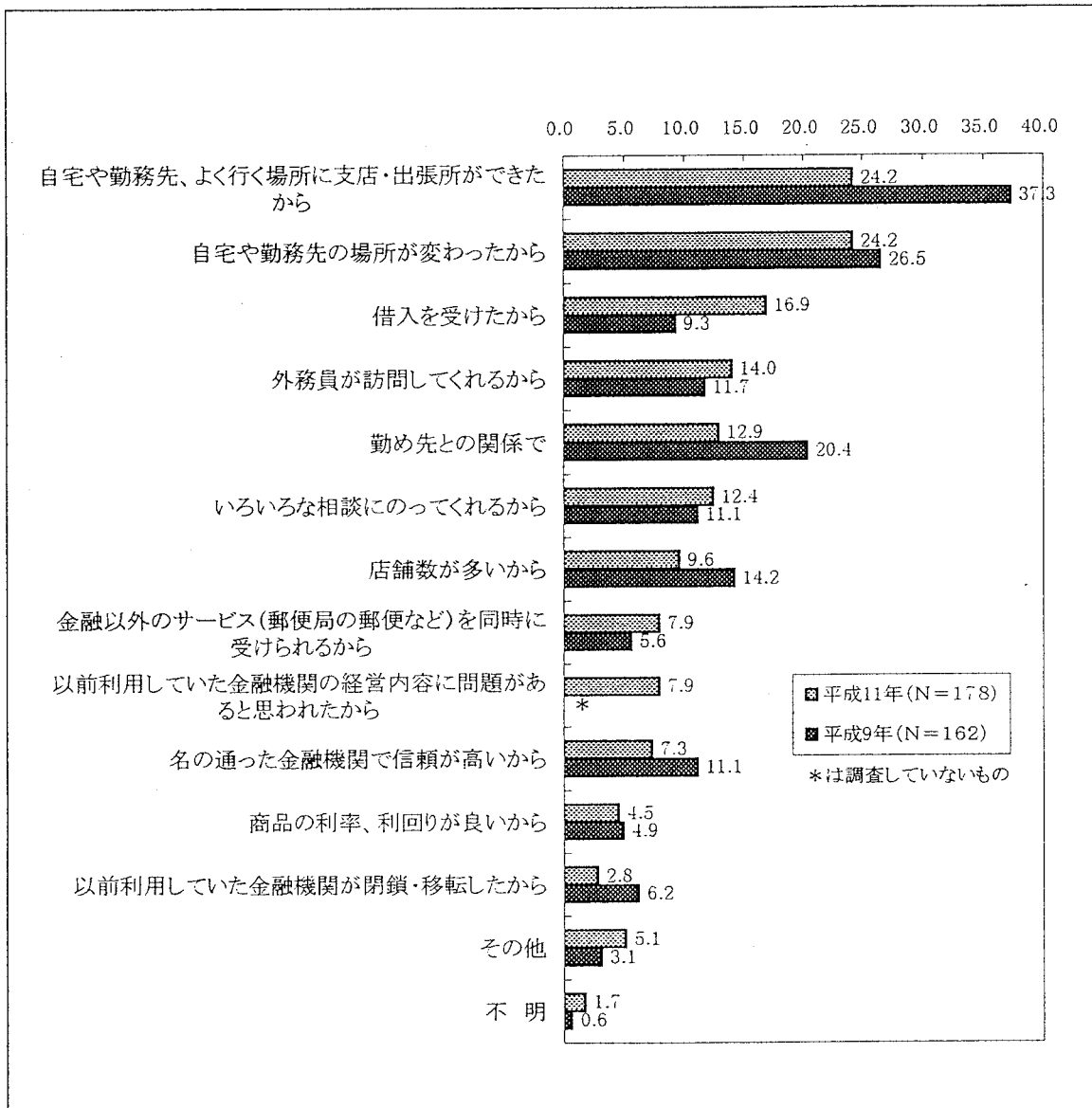
前回調査結果と比較して、ほとんど変化はない。



問 10-付問 4 新たに別の金融機関を選んだ理由

決済口座としての利用金額の最も多い金融機関を「変更した」という人に、新しく別の金融機関を選んだ理由を聞いたところ、「自宅や勤務先、よく行く場所に支店・出張所ができたから」(24.2%)と「自宅や勤務先の場所が変わったから」(24.2%)が同率でトップにあげられた。

前回調査結果と比較すると、上位2位の項目に変化はない。

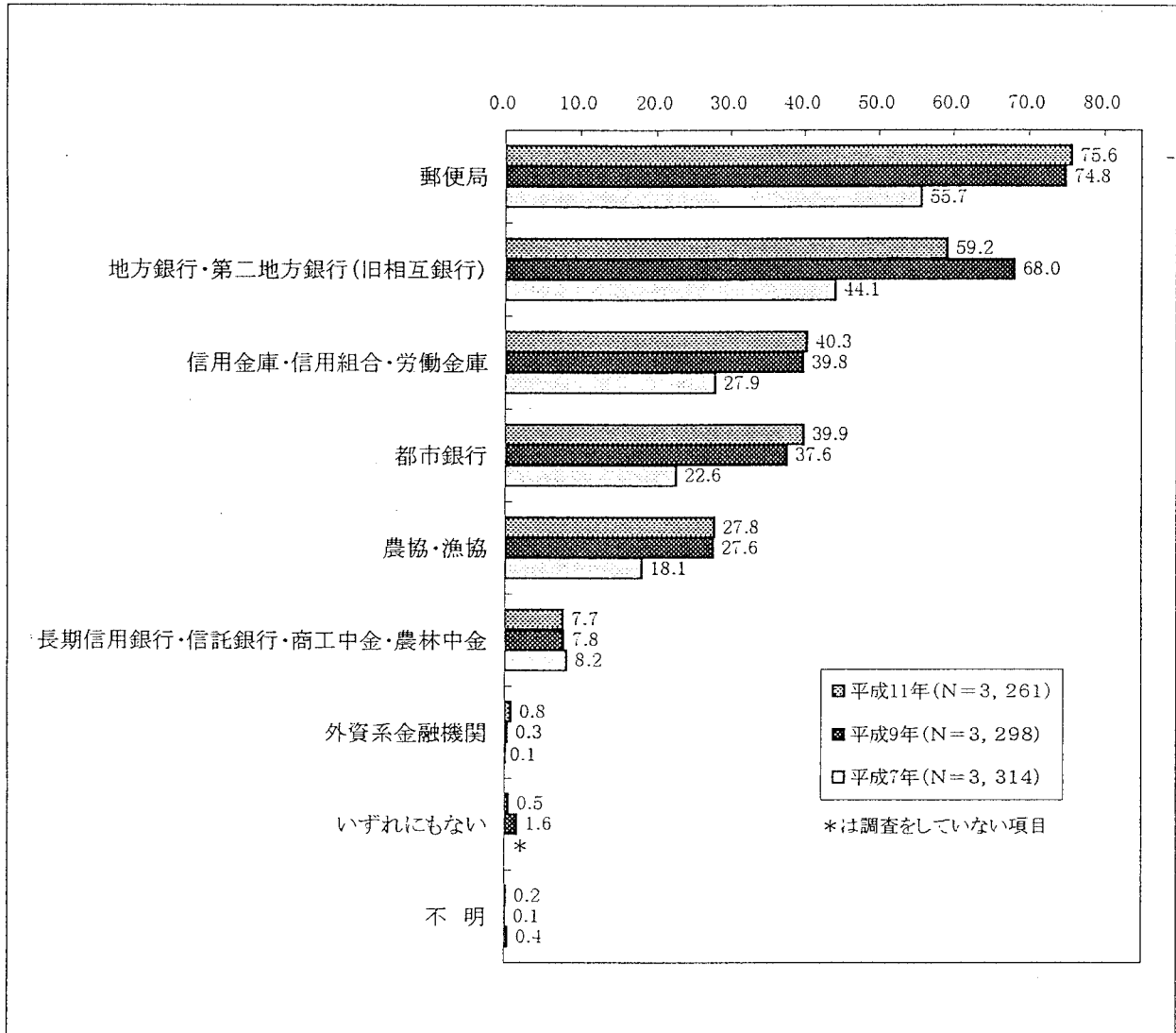


3. 預貯金サービス

問 11 預貯金がある金融機関

預貯金のある金融機関としては、「郵便局」(75.6%) が最も多く、次いで、「地方銀行・第二地方銀行」(59.2%)、「信用金庫・信用組合・労働金庫」(40.3%)、「都市銀行」(39.9%)の順となっている。

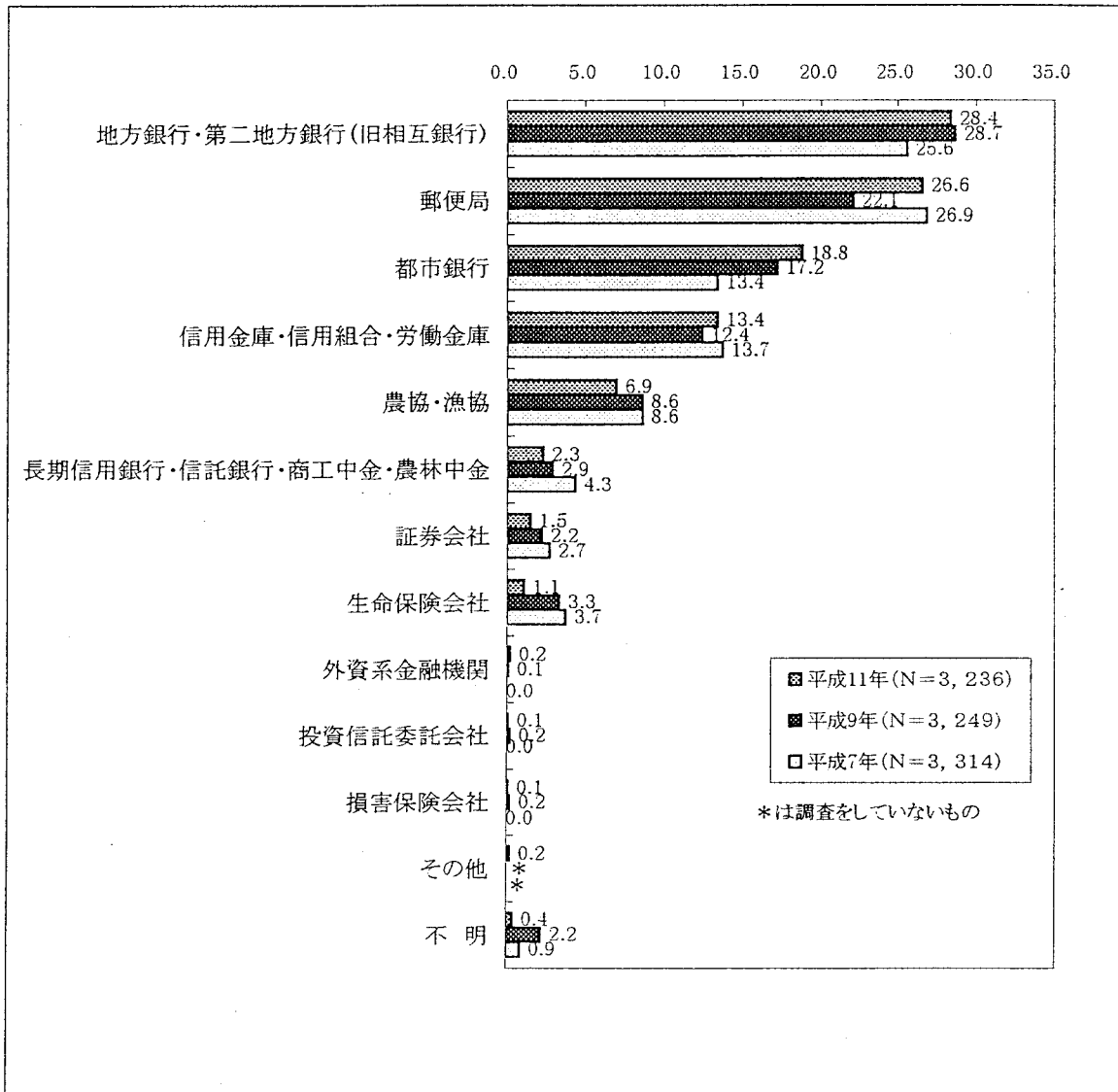
前回の調査結果と比較すると、これら上位の順位は同じで、比率もほぼ同率となっている。



問 11-付問 1 最も貯蓄額が多い金融機関

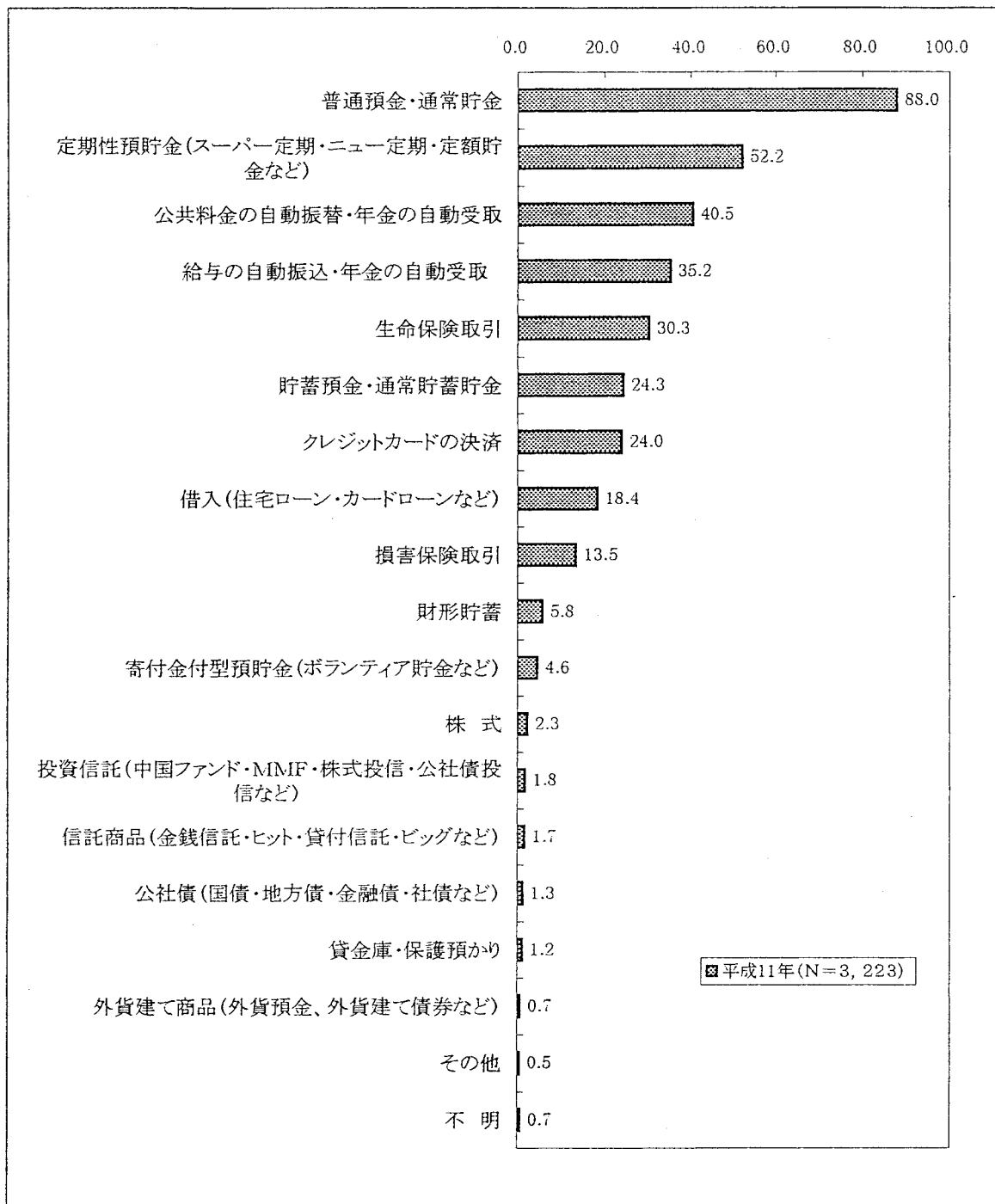
最も預貯金額（投資額）の多い金融機関は、「地方銀行・第二地方銀行」（28.4%）、「郵便局」（26.6%）、「都市銀行」（18.8%）、「信用金庫・信用組合・労働金庫」（13.4%）となっている。

前回の調査結果と比較すると、これら上位の順位は同じで、比率はいずれも若干増えている。



問 11-付問 2 付問 1 で選んだ金融機関で行っている金融取引

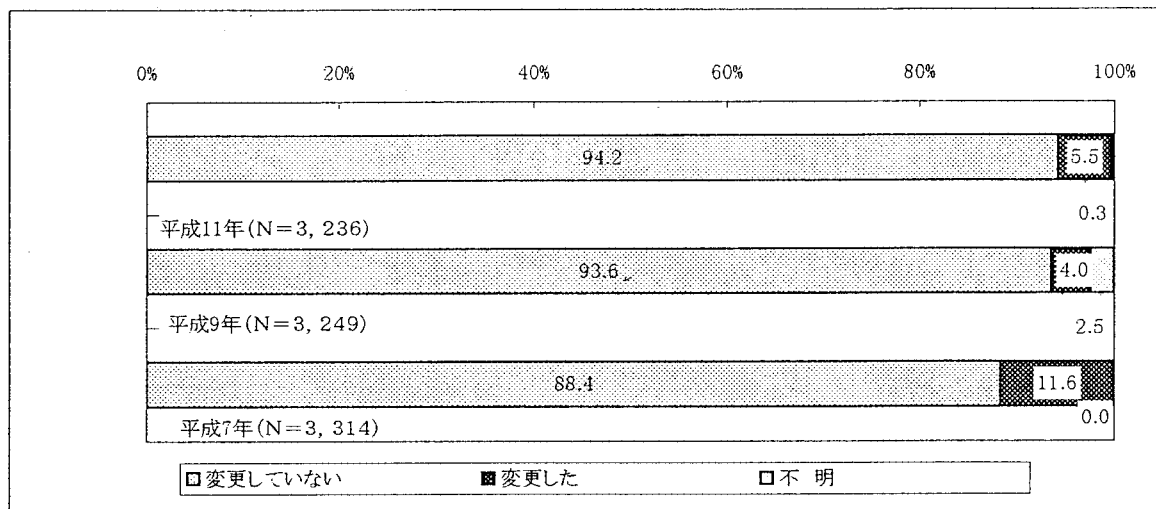
最も預貯金額（投資額）の多い金融機関で現在行っている取引について聞いたところ、「普通預金・通常貯金」（88.0%）が最も多く、次いで、「定期性預貯金」（52.2%）、「公共料金の自動振替・年金の自動受取」（40.5%）、「給与の自動振込・年金の自動受取」（35.2%）「生命保険取引」（30.3%）の順となっている。



問 11-付問 3 付問 1 の金融機関は 2 年前と同じか

2 年前と比べ、預貯金額の最も多い金融機関を変更したかどうかについては、「変更した」が 5.5%である。

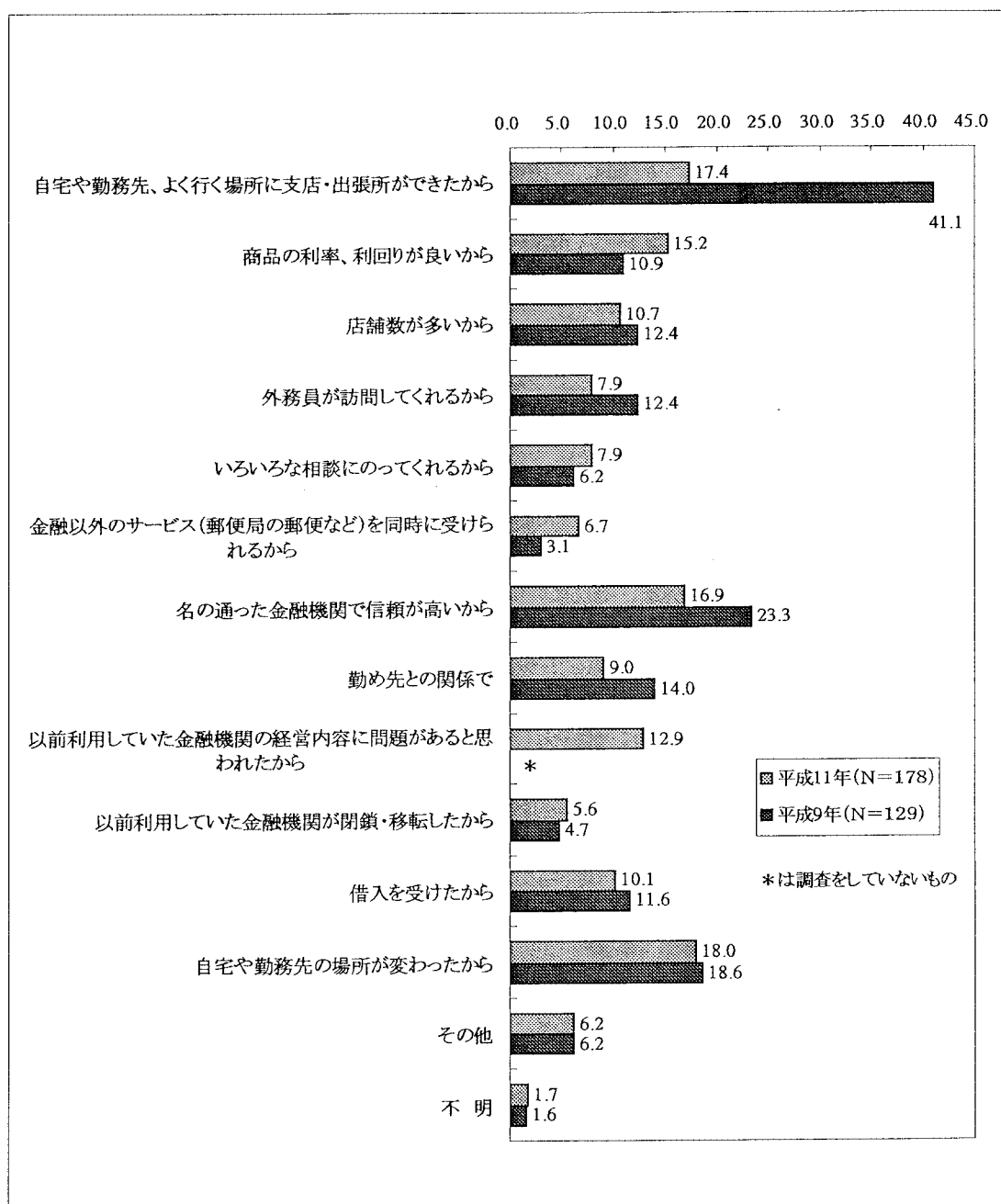
前回調査結果と比較して、ほとんど変化はない。



問 11-付問 4 新たに別の金融機関を選んだ理由

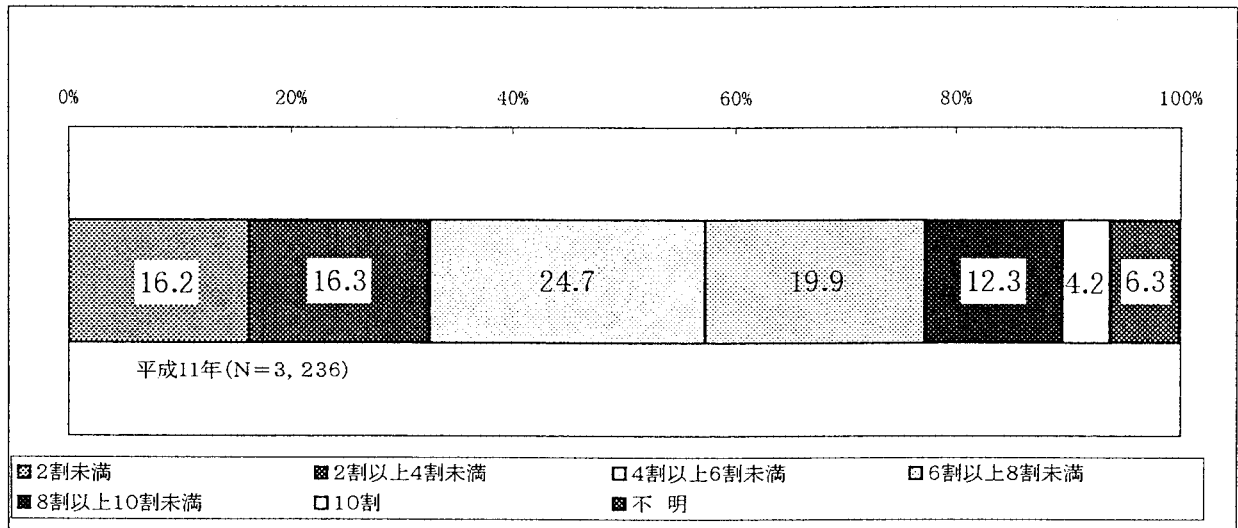
預貯金額の最も多い金融機関を「変更した」という人に、新しく別の金融機関を選んだ理由を聞いたところ、「自宅や勤務先の場所が変わったから」(18.0%)、「自宅や勤務先、よく行く場所に支店・出張所ができたから」(17.4%)、「名の通った金融機関で信頼が高いから」(16.9%)「商品の利率、利回りが良いから」(15.2%)などがあげられている。

前回調査結果と比較すると、今回、「自宅や勤務先、よく行く場所に支店・出張所ができたから」は20ポイント以上の減少となり、「名の通った金融機関で信頼が高いから」も6ポイント減少しているが、「商品の利率、利回りが良いから」は4ポイント増加している。



問 11－付問 5 預貯金が金融資産全体に占める割合

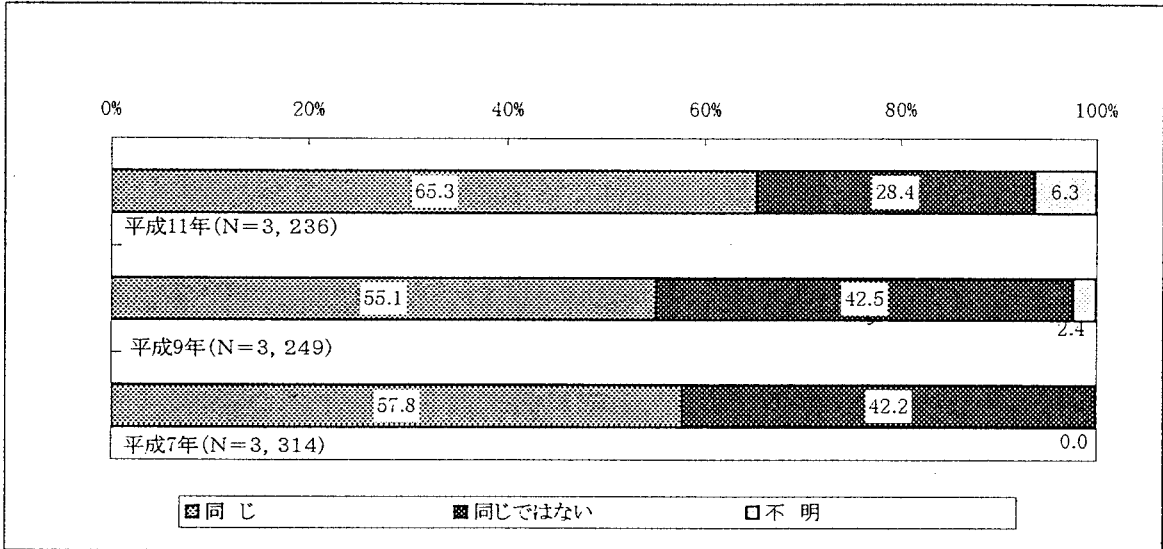
預貯金額の最も多い金融機関における、預貯金額の金融資産全体に占める割合は、「4割以上6割未満」が24.7%となっており、「2割未満」(16.2%)と「2割以上4割未満」(16.3%)を合わせた“4割未満”が32.5%、「6割以上8割未満」(19.9%)、「8割以上10割未満」(12.3%)、「10割」(4.2%)を合わせた“6割以上”が36.4%となっている。



問11-付問6 最多決済利用機関との異同

最多貯蓄金融機関と最多自動引落・受取機関については、「同じ」という回答が65.3%である。

過去3回の調査結果と比較すると、平成5年から次第に減少してきた「同じ」という回答の比率が、今回は平成5年のレベルに戻った。

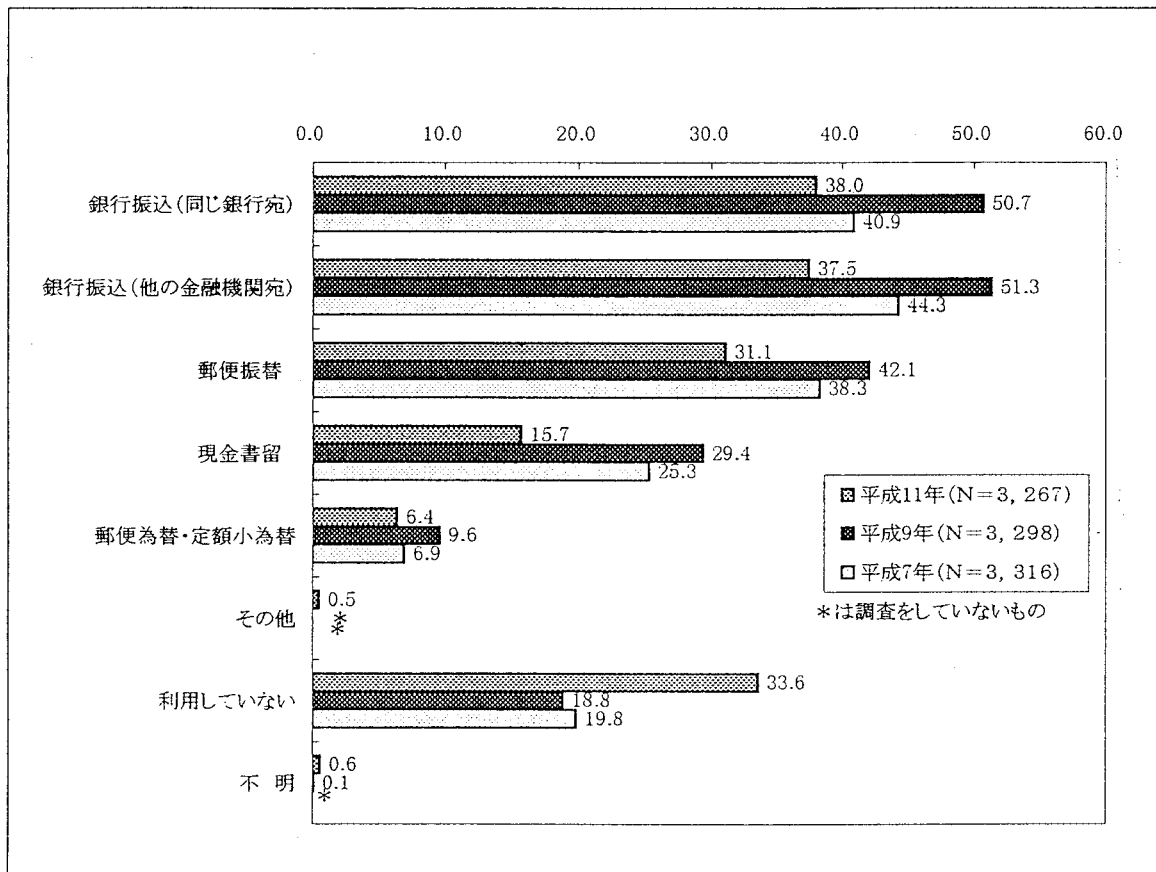


4. 送金サービス

問 12 最近1年間の送金手段

最近1年間に利用した送金手段は、「銀行振込(同じ銀行宛)」(38.0%)、「銀行振込(他の金融機関宛)」(37.5%)、「郵便振替」(31.1%)などがあげられており、3人に2人は何らかの送金サービスを利用している。

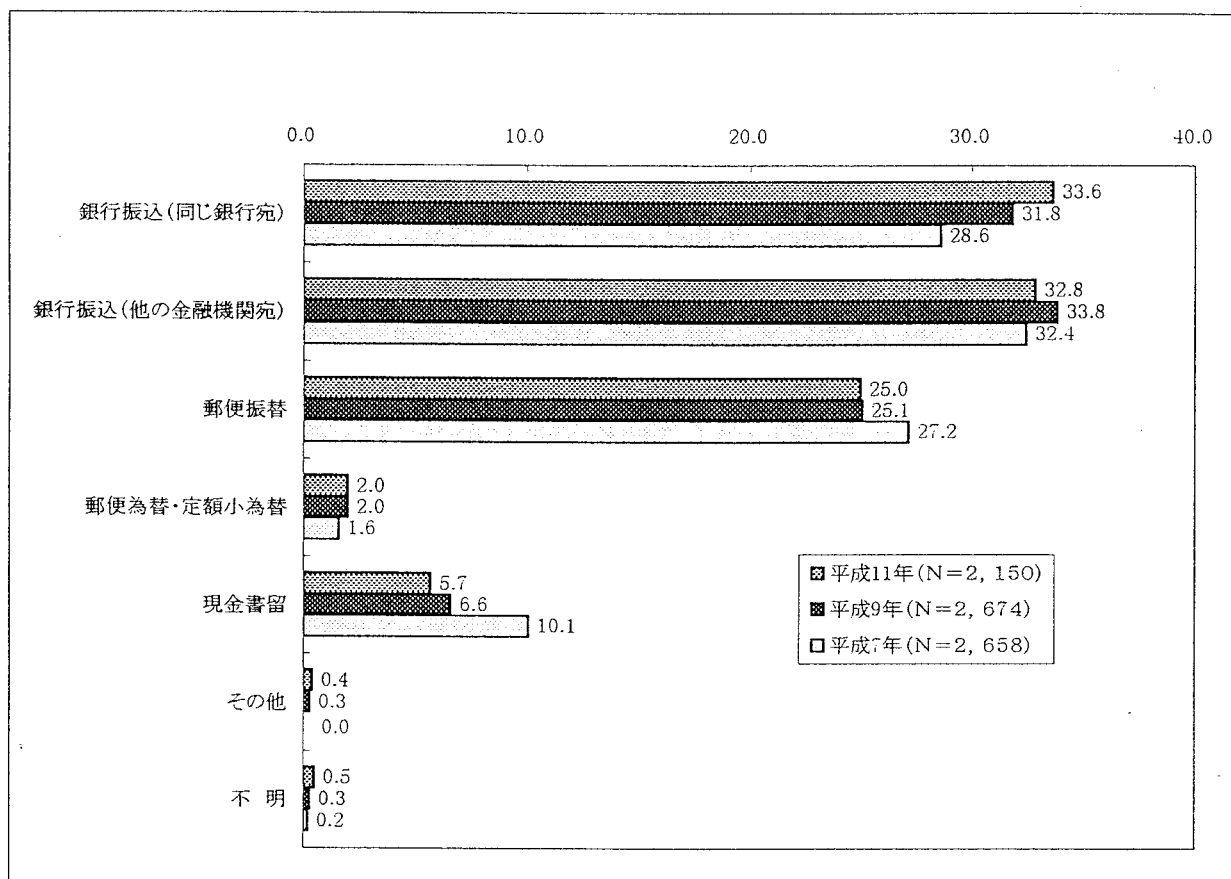
前回調査結果と比較すると、これら上位の3項目に限らずすべての項目の比率が減少しており、これらの3項目に加えて「現金書留」も合わせていずれも10ポイント以上の減少となっている。



問 12 - 付問 1 最も多く利用した送金手段

最も多く利用した送金手段は、割合の高い順に「銀行振込（同じ銀行宛）」(33.6%)、「銀行振込（他の金融機関宛）」(32.8%)、「郵便振替」(25.0%) となっている。

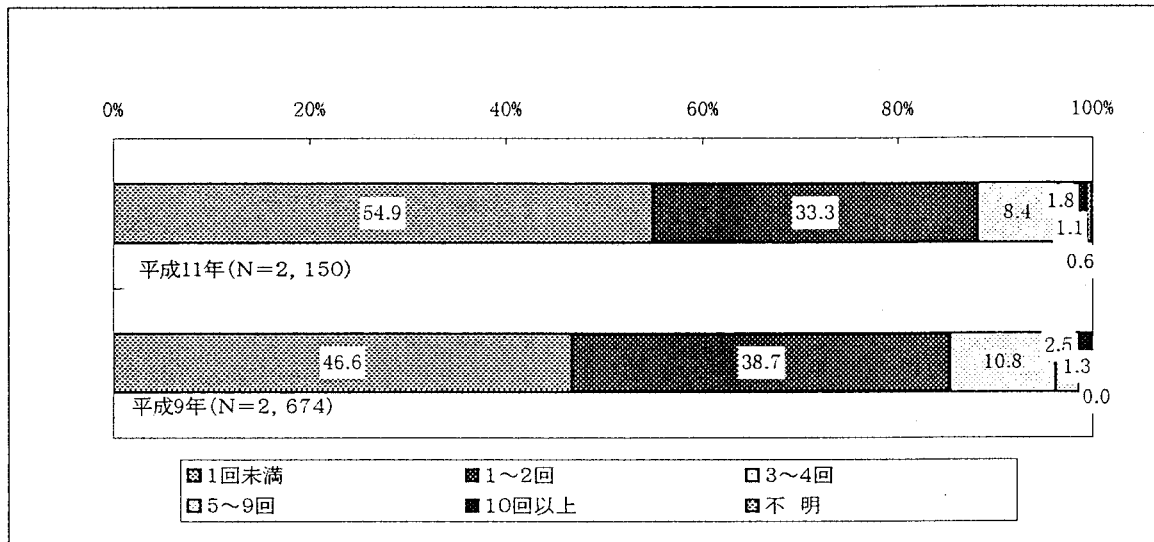
前回調査結果と比較すると、これらの比率はいずれもほとんど変化がない。



問 12 - 付問 2 1ヶ月あたりの平均利用回数

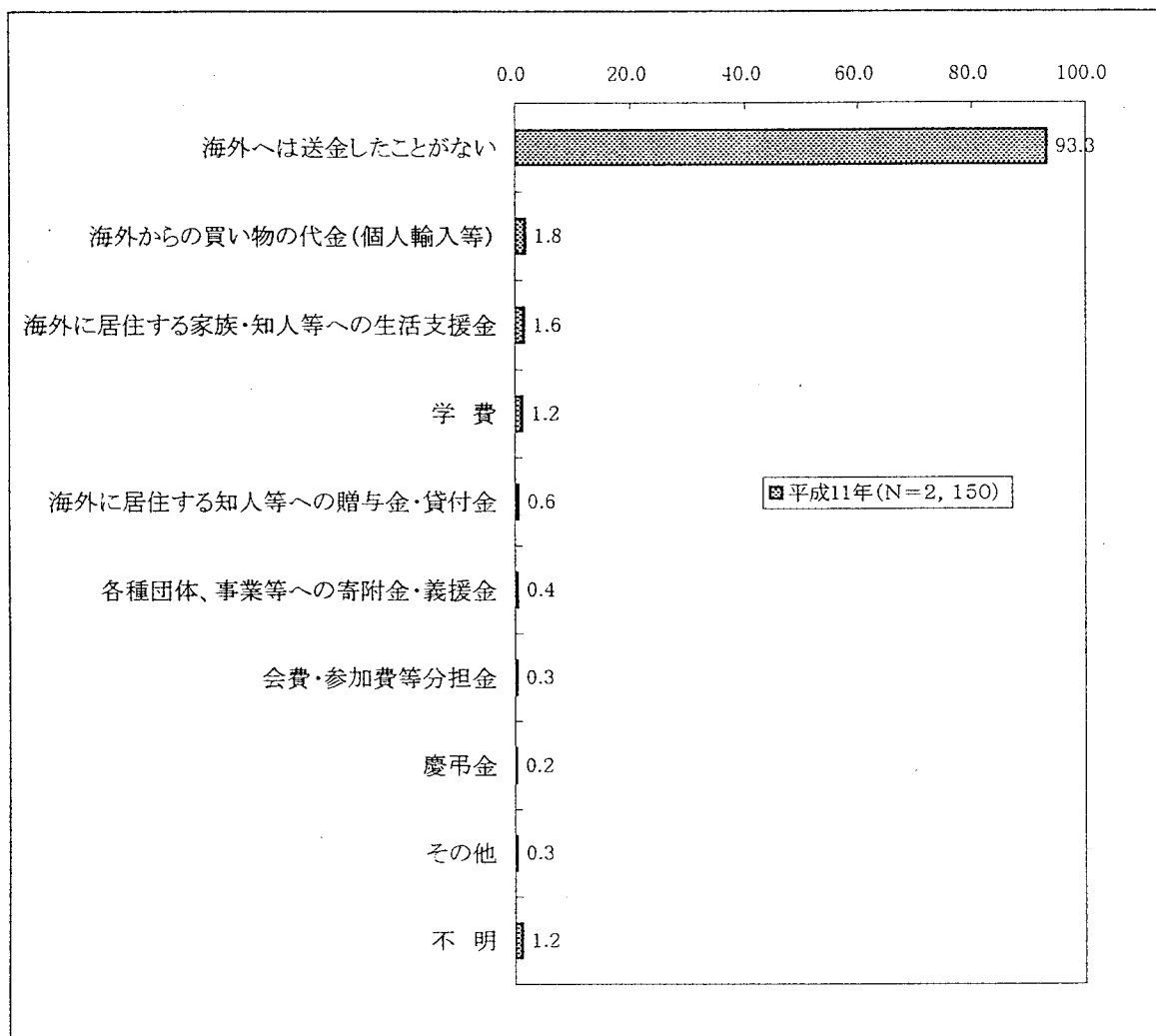
送金の1か月あたりの平均利用回数は、「1回未満」が54.9%、「1～2回」が33.3%、「3～4回」が8.4%となっている。

前回調査結果と比較すると、「1回未満」は今回8ポイント増えており、「1～2回」は5ポイントの減少、「3～4回」は2ポイントの減少となっている。



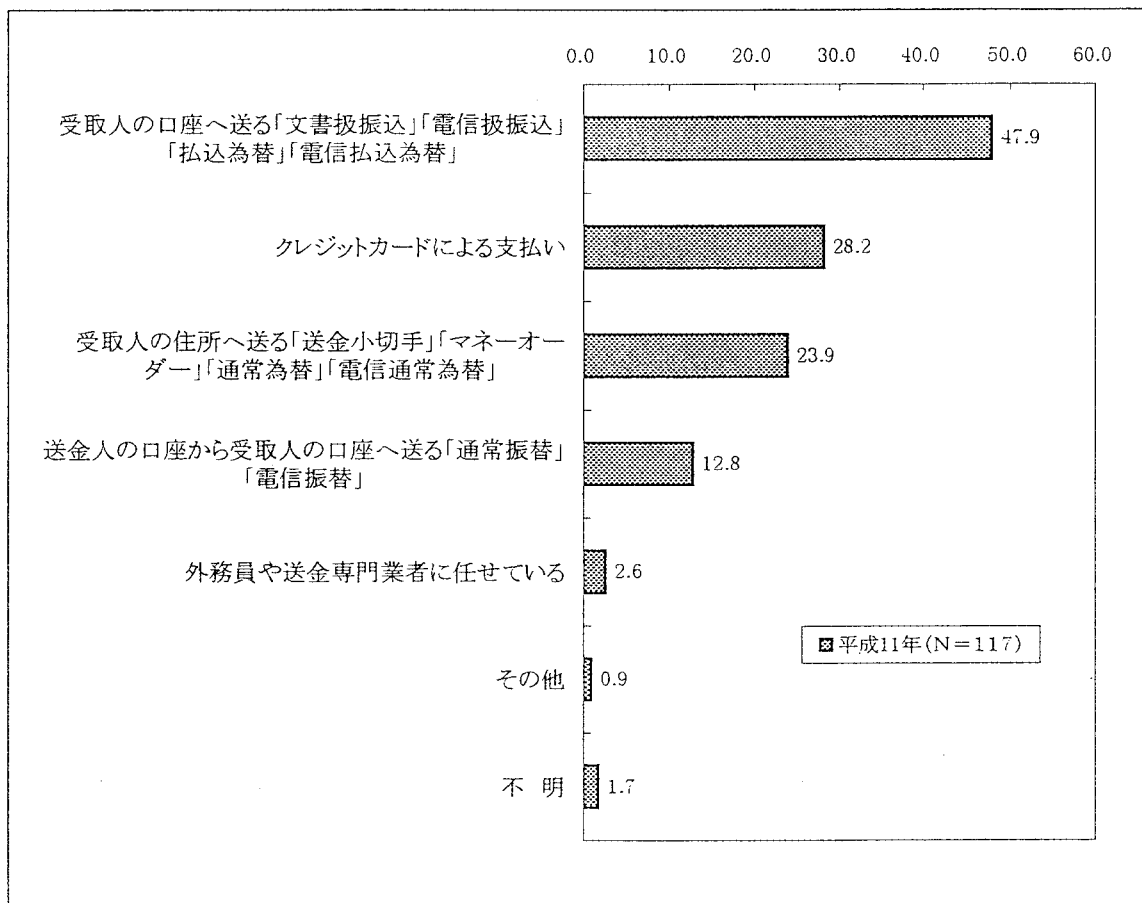
問 12 - 付問 3 海外への送金目的

これまでに国内から海外へ送金した目的を聞いたところ、「海外からの買い物の代金」(1.8%)、「海外に居住する家族・知人等への生活支援金」(1.6%)などと僅かであり、「海外へは送金したことがない」という回答が 93.3%を占めている。



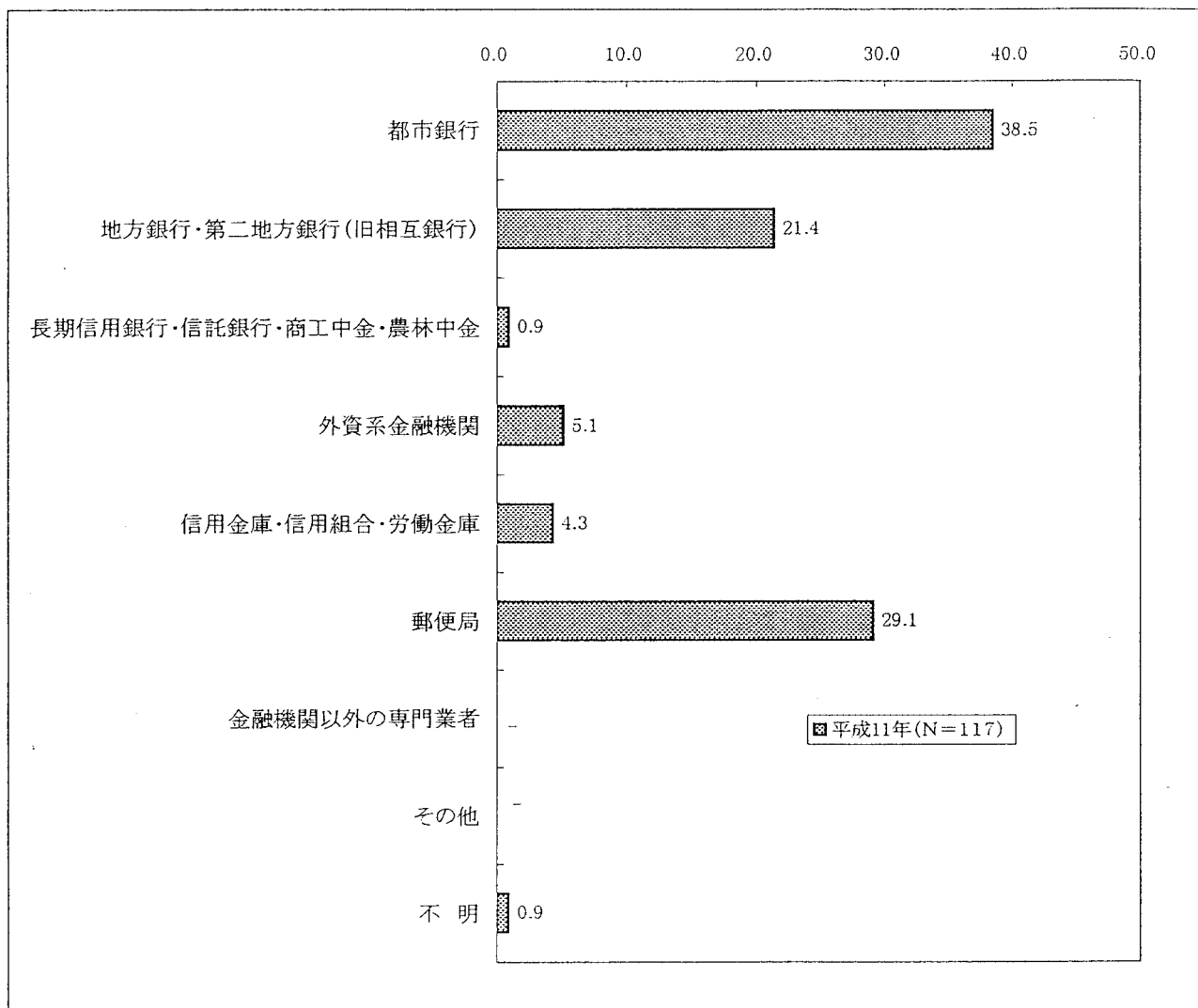
問 12 - 付問 4 海外送金の際に利用した送金手段

海外送金の際に利用した送金手段は、「受取人の口座へ送る「文書扱振込」「電信扱振込」「払込為替」「電信払込為替」が47.9と半数を占め、以下、「クレジットカードによる支払い」(28.2%)、「受取人の住所へ送る「送金小切手」「マネーオーダー」「通常為替」「電信通常為替」(23.9%)となっている。



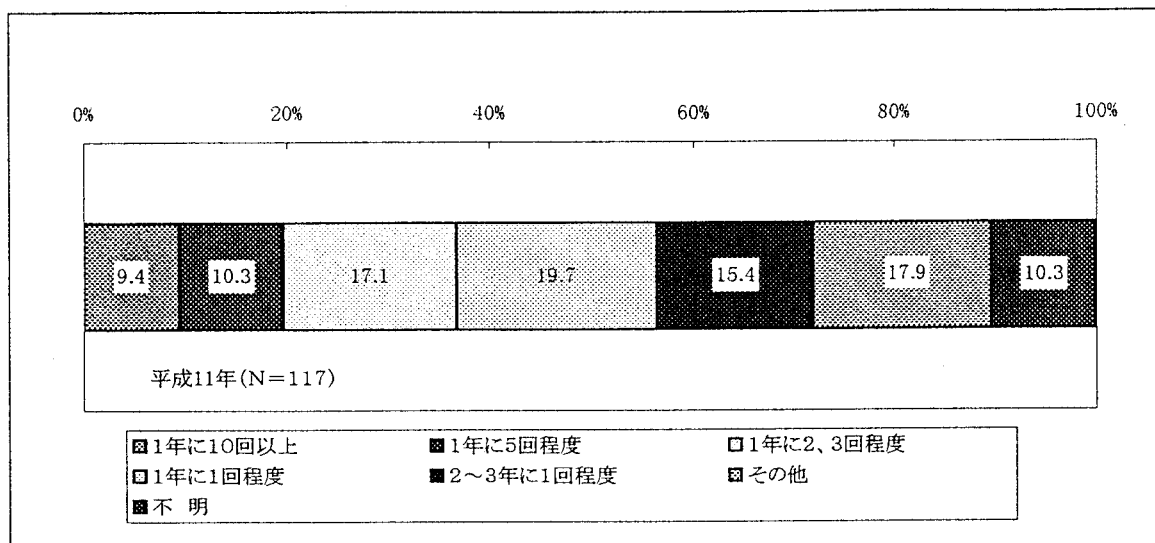
問 12 - 付問 5 最も利用回数の多い金融機関

海外送金の際に利用する金融機関の中で最も利用回数の多い金融機関は、「都市銀行」(38.5%)、「郵便局」(29.1%)、「地方銀行・第二地方銀行」(21.4%) となっている。



問 12 - 付問 6 海外送金の頻度

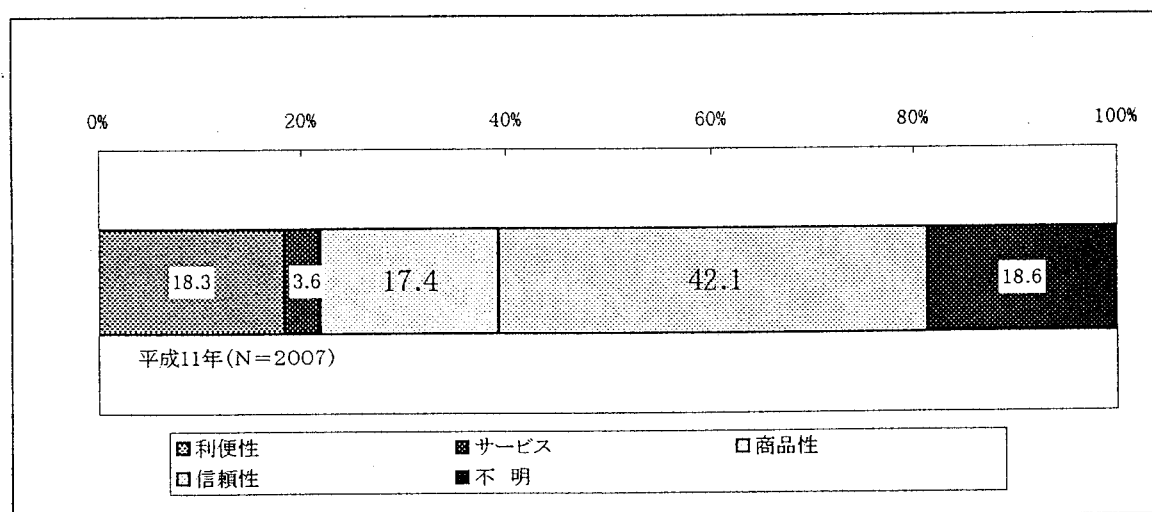
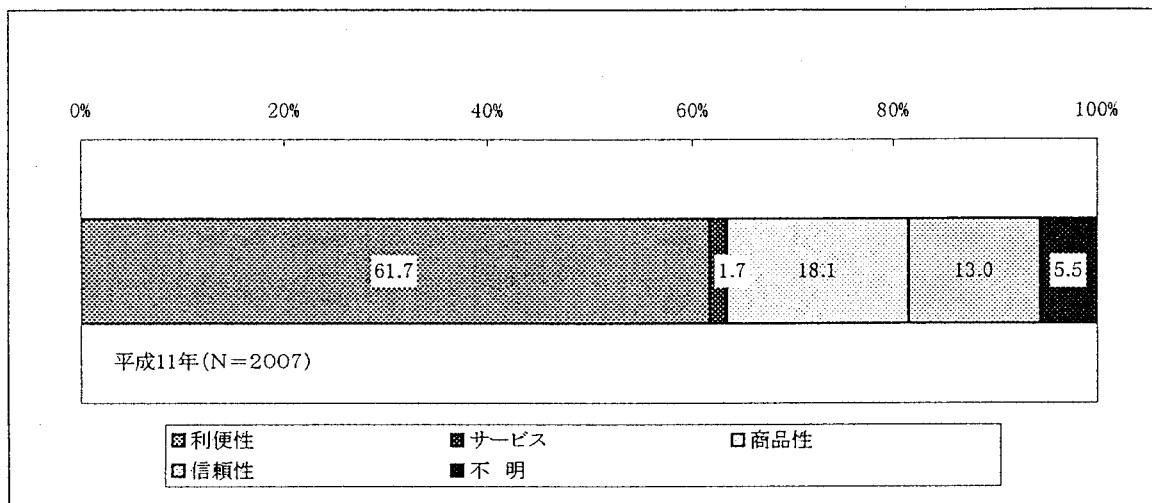
海外への送金の頻度は、平均して「1年に10回以上」が9.4%、「1年に5回程度」が10.3%で、“年5回以上”という人は約2割である。



問 12 - 付問 7 送金時に金融機関選択の最も重視する要素

いままで海外送金をしたことがないという人に、国内、海外送金で利用する金融機関を選択する基準について聞いた。

その結果、まず、国内の送金については、「利便性」(61.7%)、「商品性」(18.1%)、「信頼性」(13.0%)となっており、海外への送金については、「信頼性」(42.1%)、「利便性」(18.3%)、「商品性」(17.4%)、となっている。

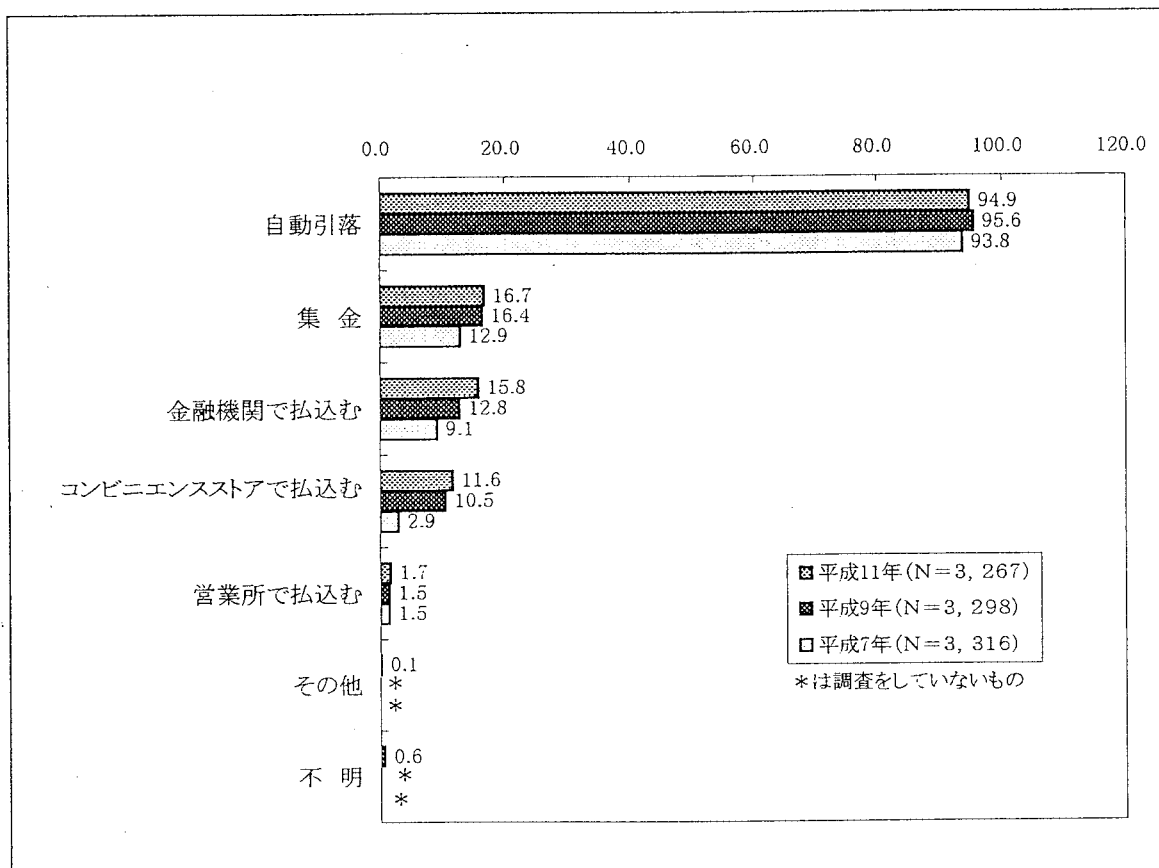


5. その他の金融サービス

問13 公共料金の支払い方法

公共料金の支払い方法として利用しているものは、「自動引落」(94.9%)が断然多く、以下、「集金」(16.7%)、「金融機関で払込む」(15.8%)「コンビニエンスストアで払込む」(11.6%)となっている。

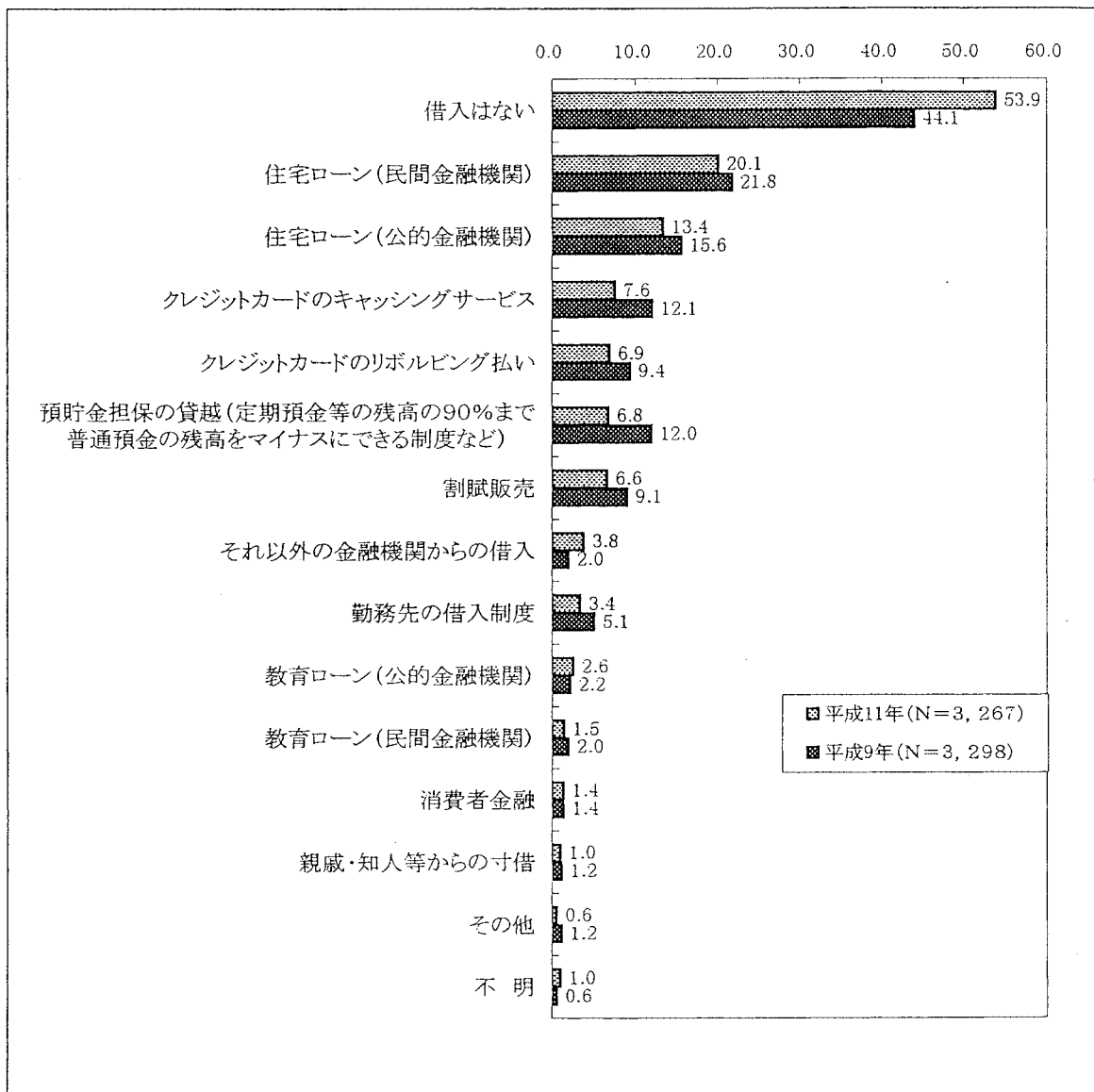
前回の調査結果と比較すると、「金融機関で払込む」が僅かに増えただけで、他はほとんど変わらない。



問 14 現在利用している借入

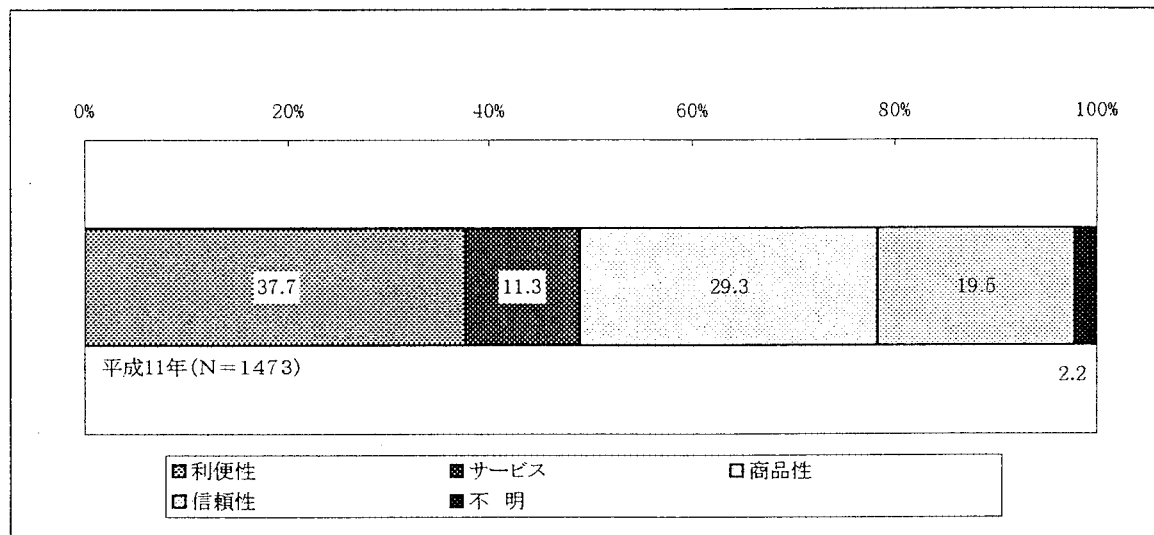
現在利用している金融機関などからの借入は、「住宅ローン（民間金融機関）」(20.1%)、「住宅ローン（公的金融機関）」(13.4%)、「クレジットカードのキャッシングサービス」(7.6%) などとなっている。「借入はない」という回答は 53.9%となっている。

前回の調査結果と比較すると、これら3項目の比率はいずれも前回より若干減少しており、全体的にも、「借入はない」という回答が10ポイント近く増えている。



問 14 - 付問 1 借入先金融機関決定にあたって重視した要素

借入先金融機関の決定にあたって重視することは、「利便性」が37.7%で第一にあげられ、次いで、「商品性」(29.3%)、「信頼性」(19.5%)が続いている。

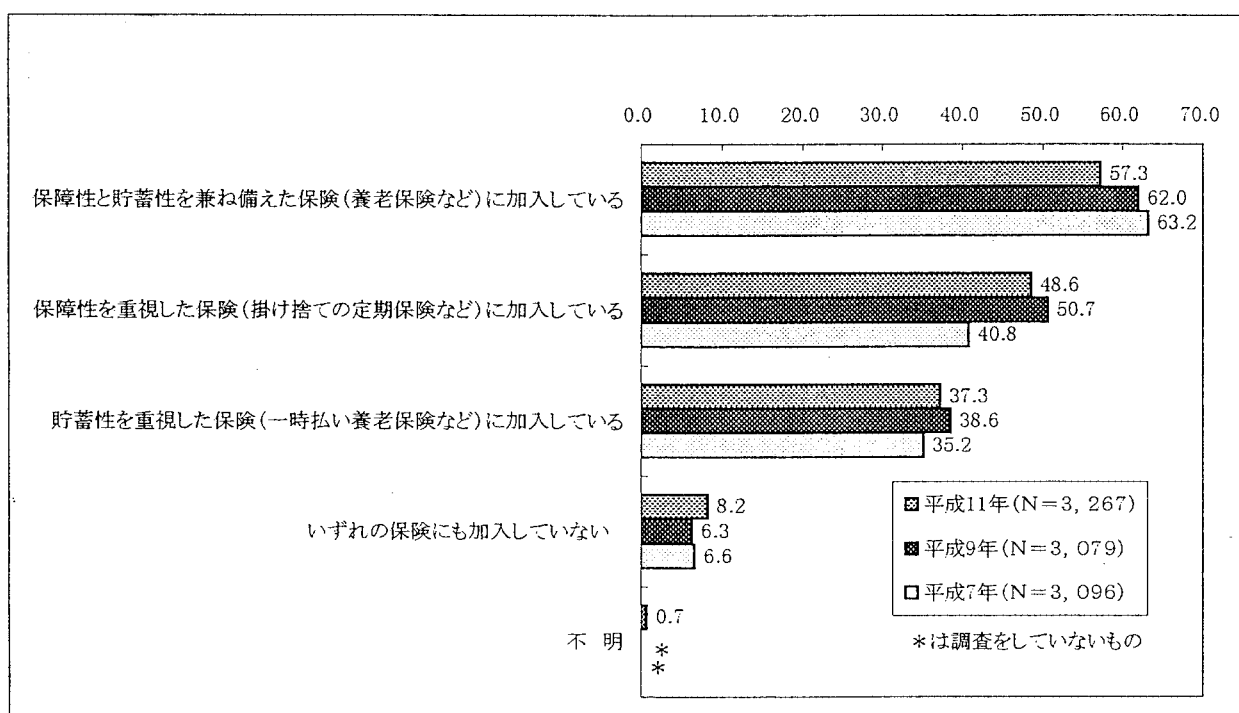


6. 生命保険

問 15 加入している生命保険種別

現在の世帯内における生命保険の加入状況をみると、「保障性と貯蓄性を兼ね備えた保険に加入している」が57.3%で、次いで、「保障性を重視した保険に加入している」(48.6%)、「貯蓄性を重視した保険に加入している」(37.3%)が続いている。

過去3回の調査結果と比較すると、「保障性と貯蓄性を兼ね備えた保険に加入している」は次第に僅かずつ減少してきたが、今回も前回に比べて5ポイント近く減少している。「保障性を重視した保険に加入している」と「貯蓄性を重視した保険に加入している」も前回に比べて若干減少している。

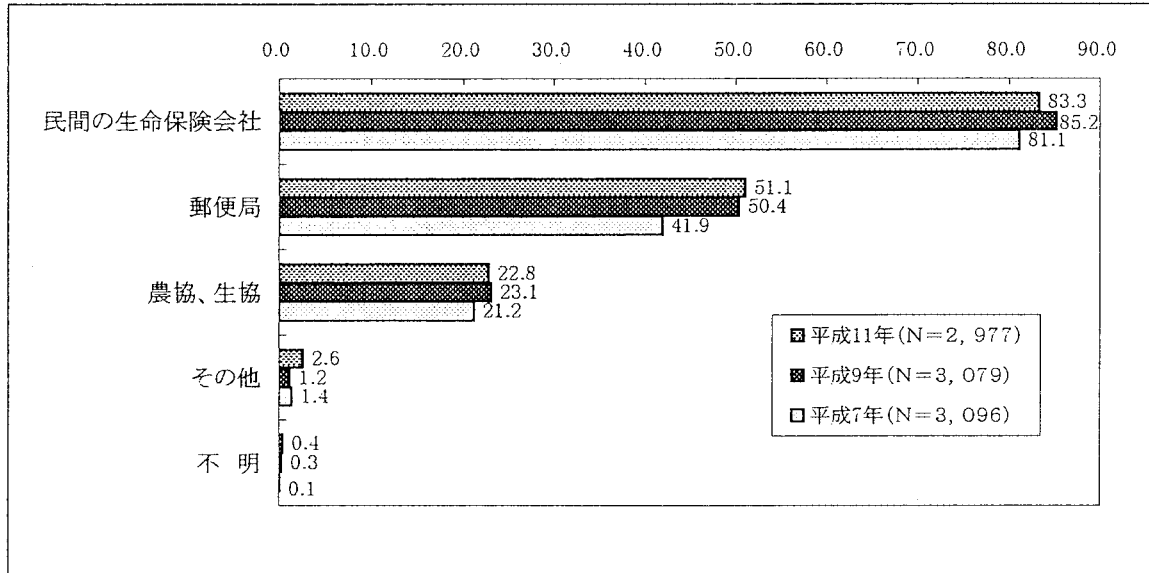


問 15 - 付問 1

(1) 加入している金融機関

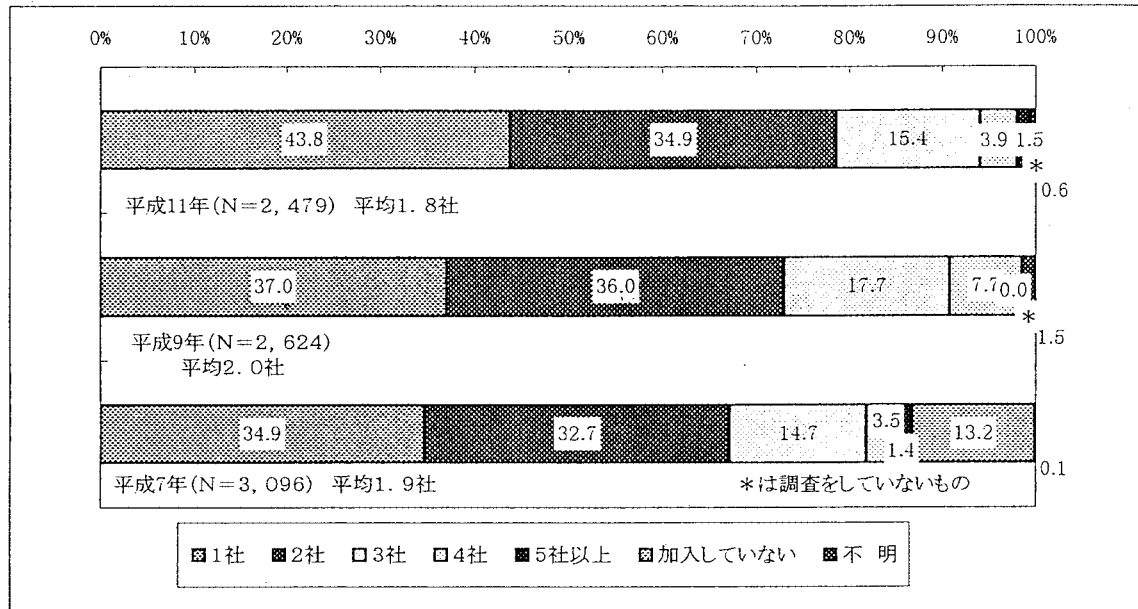
生命保険の加入機関としては、「民間の生命保険会社」が 83.3%と最も多く、次いで、「郵便局」(51.1%)、「農協、生協」(22.8%) の順となっている。

前回の調査結果と比較すると、今回はいずれも僅かずつ減少している。



(2) 加入社数

民間の生命保険会社の加入社数の分布をみると、「1社」が43.8%、「2社」が34.9%、「3社」が15.4%となっており、平均加入社数は1.84社である。
 前回の調査結果と比較すると、今回は平均で0.16 マイナスとなっている。



問 15 - 付問 2 民間生命保険の保険金額合計

世帯内で加入している生命保険の合計保障額は、「3,000 万円以上～5,000 万円未満」が 20.5%、「1,000 万円以上～2,000 万円未満」が 17.1%、「2,000 万円以上～3,000 万円未満」が 15.1%と、1,000 万円～5,000 万円の間全体の過半数（52.7%）が集中している。前回の調査結果と比較すると、「5,000 万円以上」の割合が 4 ポイント近く減少している。

